

令和3年度 学校自己評価表

中長期ビジョン (学校ビジョン)	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する
---------------------	---

今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立	3 ふるさとキャリア教育の推進	5 業務改善の取組
	2 基礎学力の向上	4 地域との連携と情報発信	

年度当初					中間評価 (9月)		
評価項目	具体的項目	現状	具体的目標	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髪服装違反の減少に努めた ■昨年度と比較して遅刻者が15%減少している ■「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組む ■遅刻総数を昨年度より10%減少する ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する 	<ul style="list-style-type: none"> ■適切な指導を繰り返し、主体的に考えさせ、規範意識の向上を図る ■問題行動には、保護者や関係機関との連携を密にし、粘り強い指導を行う ■始・終業時での挨拶を徹底し、教職員自ら模範を示し、「分離礼」「静止礼」を定着させる 	<ul style="list-style-type: none"> ■1学期末頭髪指導1回目不合格生徒数は昨年度とほぼ同数であった。新型コロナウイルス感染予防対策で外出を控え、理美容店へ行けなかった生徒が多かった。 ■1学期末遅刻生徒数は、昨年度より約13%減っている。 ■始業・終業時での「分離礼」「静止礼」は生徒が意識し定着が見られる。 ■一学期のあいさつ運動では、多くの部が参加し活気ある運動ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■進路意識の向上を図り、日頃から自ら時間厳守や身なりを整えさせ、粘り強い指導を続ける。また、保護者へ連絡し協力を得るよう努める。 ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、授業以外の場面でも教員からの声かけ・挨拶などを繰り返し、定着を図る。 ■マナーアップ期間だけでなく、生徒会独自の取組を増やす。
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めた ■教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている ■朝読書の達成率が前年より減少し、落ち着いて読書に取り組みていない生徒が増えた ■各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHR等を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ■朝読書の達成率を全学年96%を目指す ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒情報を共有し、連携を密にし、面談等を行うなど迅速に指導を行う ■ハイパー・QUを最大限に活用し、面談や情報共有を行い、生徒理解に努める ■人権意識と共通意識を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権の尊重に関する指導に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ■5月に実施したQUアンケートの結果について、支援を要する生徒の情報を確認し、担任と情報を共有することができた。さらに、気になる生徒に関しては一人ずつ相談部で面談をし、生徒との繋がりを持つことができた。 ■個々の生徒の状況に応じて、相談室、保健室、SC等と他分掌、外部機関が連携し、迅速な対応ができています。 ■6月の朝読実態調査の結果は92.7%であった。(昨年同時期93.4%)達成率は減少傾向にあり、特にチャイム前から読み始める生徒が少なくなってきたのが原因といえる。 ■人権意識調査(新入生)・いじめ実態調査(全学年)を実施し、その結果をふまえつつ、いじめ防止LHRを行った。 ■新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、マスクの着用、手指消毒、食事時の注意の徹底等、生徒会と保健委員会による放送(昼休みと放課後の部活動開始時に放送による)を行い、感染防止に努めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■ハイパー・QUに関しては10月にも実施し、生徒の状況がどのように変化したか5月の結果と比較、確認すると共に、支援を要する生徒の適切な支援の方法を検討する。 ■引き続き学年団や各課、関係分掌との連携を密にし、生徒の情報収集を図るとともに素早い対応をする。 ■今まで通り、朝読や読書活動を粘り強く推進していく。図書館利用が促進されるよう各教科と連携を図り、開かれた図書館になるよう取り組む必要がある。 ■戦争と平和に関わる普遍的な人権問題から、SNSによる人権侵害などの今日的な問題まで、深く学び考える内容をLHRに盛り込む。
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している ■「G Suite For Education」を導入し、臨時休業及び分散登校時に活用した。また、授業公開、研修を通じて授業への活用方法を検討した ■生徒用に「スタディサプリ」、教職員用に「Find! アクティブラーナー」を導入した 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、学びに向かう姿勢を育成する ■マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ■ICT活用の校内研修や研究授業を増やし、授業力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努める ■「G Suite For Education」の授業への活用方法について検討する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■マナトレについては、計画通りすめ基礎学力の定着を図った。 ■SPIの補習は夏休みに数学科に行っていた。各学年に対し『学研Vステップ模試』を受験するよう指導した。 ■「G Suite For Education」では、科によっては課題などの出題などに活用されている。様々な場面でClassroom、Meetを活用した。 ■コロナ禍により、教員研修ができていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■マナトレの効果測定を行い検証し、今後の指導のあり方を検討することが重要である。 ■オンライン授業に向けた準備を実施する。 ■「G Suite For Education」の授業への活用方法について今後も各教科と連携し、GIGAスクールに対応する。
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■3級海技士(航海)2名、(機関)1名筆記合格。4級海技士(航海)4名、(機関)1名筆記試験合格、1級小型船舶操縦士26名受験し全員合格 ■自動車整備士登録試験、11名全員合格 ■第1種電気工事士3名合格、第2種電気工事士20名合格 ■介護福祉士14名合格。9年連続合格率100%達成 ■地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストの育成を目指す ■資格・検定試験の合格率を向上する 	<ul style="list-style-type: none"> ■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す。 ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの社会人講師の授業を実施し、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導が実施できている。 ■資格試験の補習を充実し、夏季休業中の補習を実施し、試験対策をした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き多くの社会人講師の授業を実施し、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を行う。 ■合格することで生徒が自信をつけ、生徒の自己肯定感を養うため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すとともに、合格者が増えるよう取り組んでいく。
3 ふるさとキャリア教育の推進	ふるさとキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■キャリアパスポートでは、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができた ■コロナ禍ではあったが、海洋科、機械科は時期をずらして、福祉科は予定どおりインターンシップを実施した ■福祉科は実習施設との連携を密にし、実習前後の指導を徹底し、実習のねらいや課題が明確にできるように生徒自身に考えさせた ■専門的な就職先に、86.2%内定した ■保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ■進路指導計画に基づいた指導を徹底する ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の体験・経験を増やすための授業保障を行う ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、将来を見据えた進路指導を今後も継続する ■コロナ禍に対応したリモートによる職場見学や研修を企画する 	<ul style="list-style-type: none"> ■進路指導計画に基づき、ミスマッチを防ぐための応募前職場見学の充実を図った。就職希望者は概ね参加することができた。なお、リモートによる見学会は数件ほどであった。 ■キャリアパスポートについては、昨年度の反省点からすべてではないが内容を一部変更した。 ■3つの科でインターンシップが実施でき、残り2科は2学期末に行う予定である。 ■リモートによる実習施設との連携学習を実践している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■1、2年生対象のキャリアセミナーと進学ガイダンスは3学期に実施する。 ■引き続き面接指導や作文・小論文指導を継続していき、全員の進路先が早く決定するように指導していく。 ■キャリアパスポートの内容を踏まえて、目標や実施後にどんな力を身につけたいかを考えさせようとして、キャリアパスポートへの記入ができるように事前指導を行う。
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍で、土曜授業等の事業がほとんど実施できなかった。しかし、新巻鮭販売は、感染予防対策実施参照ガイドライン(鳥取県版イベントガイドライン)に則り、安全安心の販売活動を実施した ■学校独自事業については、鳥取県立学校版感染症予防ガイドラインに則り、感染予防対策を検討し実施したが、一部の事業で実施できないものもあった 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ経験値を上げ、役立ち感、有用感を育む ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する ■手話を学ぶことを通して、障がいに対する理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍を踏まえ、感染予防対策を検討し、地域に出かける活動など地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う(学校独自事業等の精選と内容の充実) ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■乗船実習において、寄港地活動をスムーズに行うために、簡易検査キットを使用するなど、感染予防対策に努めた。 ■なかよしオンラインコンサートや、介護技術検討会等を実施した。 ■コロナ禍でも実践できるボランティア活動を実施した。 ■コロナ禍で思うような活動ができていない科がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ■今後もコロナ禍での感染予防対策を実施し、地域や学校、各科にとってメリットの多いイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う。
	学校教育活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ■実習や行事等、マスコミへの情報提供を迅速に行っている ■各課、学年、分掌等の実習や行事等を開催ごとにホームページに掲載し更新した 	<ul style="list-style-type: none"> ■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ■ホームページによる情報発信の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校行事や各課の取組や活動、部活動の報告等をそれぞれにおいて随時更新している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信に努める。 ■ホームページに動画による発信を取り入れ、魅力的な情報発信を行う。
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍の影響はあったが、職員間の情報交換を密にし、会議の時間が短縮できた 	<ul style="list-style-type: none"> ■会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る ■各会議は1時間以内に終了する 	<ul style="list-style-type: none"> ■会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる 	<ul style="list-style-type: none"> ■事前に会議資料を配付するなど、会議時間の短縮を図っている。 ■協議、連絡・報告が、前もって関係分掌との話し合いが不十分で、必要最小限でないときがあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、事前に会議資料を配付するなど、継続して会議時間の短縮に努める。 ■協議、連絡・報告について、事前に関係分掌との話し合いを密にし、会議は必要最小限とする。
	長時間勤務者の解消	<ul style="list-style-type: none"> ■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行った ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている 	<ul style="list-style-type: none"> ■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする 	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■目標時間を越える可能性のある場合は、事前に管理、指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ■時間外業務で、緊急の生徒指導等で月45時間を超える場合がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■業務を各分掌や各教科、各科で分担し、時間外業務を削減する。